

2023年1月22日午前10時30分

降誕節第5主日 主日礼拝

司会 廣瀬真理  
奏楽 川名ひさ子

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前奏

招きのことば イザヤ書42:9-10

讃美歌 256(1-3)「生けるものすべて」 一同

詩編交読 111:1-10(P.129/125) 一同

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

志木教会 埼玉和光教会 朝霞教会  
(主の祈り)

讃美歌 288「恵みこかやき」 一同

聖書 旧約 民数記9:15-23(P.228)

新約 ルカ4:20-30(P.108)

メッセージ 『神の守りと導き』 川上盾 牧師

祈り

讃美歌 418「キリストのしもべたちよ」 一同

献金 一同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(ドン・ボスコによる) 一同

頌栄 417(3)「ほめたたえようわれらともに」

派遣・祝祷 川上盾 牧師

後奏

報告・紹介

《1月招きのことば》 イザヤ42:9-10

見よ、初めのことは成就した。新しいことをわたしは告げよう。それが芽生えてくる前に、わたしはあなたたちにそれを聞かせよう。新しい歌を主に向かって歌え。地の果てから主の榮譽を歌え。海に漕ぎ出す者、海に満ちるもの、島々とそこに住む者よ。

《1月礼拝当番》 西基和 植松みよ  
岩瀬デボラ 岩淵育雄  
佐藤智子 横田喜一

《今週の集会・行事》

- ◎ CS午後礼拝 本日13:00
- ◎ 24日(火) 牧師、関東教区部落解放委員会(大宮)
- ◎ 26日(木) 牧師、上毛愛隣士理事会
- ◎ 27日(金) 牧師、共愛学園評議員会
- ◎ 28日(土)10:00 会堂清掃 D組

《次週の主日》

◎ 主日礼拝 10:30  
メッセージ 『たとえ塔は崩れても』 川上盾 牧師  
聖書:旧約 ハガイ書2:6-9(P.1477)  
新約 ルカ21:5-9(P.151)

讃美歌:271, 100(2,4,5), 400, 100(5)

交読詩編 48:1-12(P.56/52)

司会:徳江由利 奏楽:木戸恵美子

◎ 群馬地区委員会 15:00 於・前橋教会

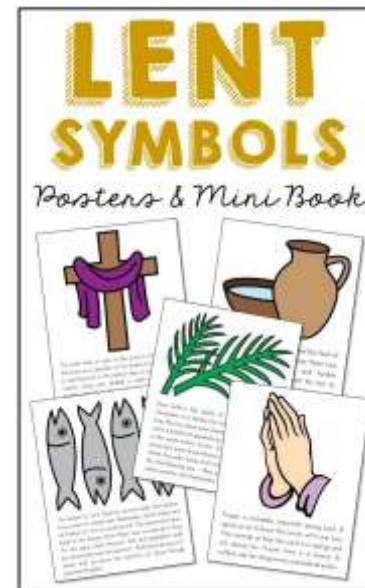
《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	41	26	26,882
婦人会例会	13		

《報告》

◎2月教会カレンダー(礼拝・行事予定表)

本日お参りしました。1月・2月は教会行事が少ない季節です。コロナ状況により、礼拝出席を控える方もおられると思います。毎週担当の方がオンライン礼拝の配信をして下さっていますのでご利用下さい。各当番の確認もお願いします。コロナ状況次第で礼拝当番の出席者が少ない時があるかも知れませんが、補い合って教会の歩みを支えていきましょう。2月22日からレント(受難節)に入ります。今年もろうそくの火を1本ずつ消しながらイエス・キリストの受難の歩みを覚えます(アドヴェントと逆)。2月26日の礼拝はレント第一主日になりますので、レントを覚える聖餐式を行ないます。



《メッセージ》『共同作業』川上盾 牧師

出エジプト18:17-23, ルカ5:1-11 (1月15日)

▼込み入った大切な仕事は、その役割を長年担ってきた人や慣れている人・こなれた人任せの傾向が強い。その方がスムーズに事が進めらる。しかし大事な仕事をひとりの人にだけ任せ続けると、その人が何かの事情でできなくなると途端に困ったことになる。大切な働きだからこそ、ひとりで抱えずに共同で担うことも大事な視点だ。▼モーセも同じ事情を抱えていた。エジプト脱出以来、荒野の旅の途中で起こる様々なトラブル、それに対するクレームの対処、最初はモーセひとりが関わっていた。しかしその効率の悪さ・行き届かない現実に対して、モーセのしゅうとエトロは役割を分担し、共同作業に切り替えることを忠告した。そうしないと、モーセも民も疲れ果ててしまう...と。この忠告を受けて複数の人員による対処へと切り替えていったことが記される。▼新約はイエスがペトロやアンデレといった弟子たちを招かれる場面、師匠の方から弟子を招かれるという、通常の弟子入りとは逆のベクトルだ。良く似た形での弟子入りに、大相撲のシステムがある。スカウトが声をかけて入門を誘うのは、身体の大きな子どもたちなのだそうだ。イエスの弟子たちには、何か選ばれるのにおふさわしいものがあつたのだろうか。▼12弟子のうち5人は漁師であった。水の上で半断を早く下さねばならない仕事...だから気性も激しくなる。大漁の日もあつた不漁の時もある、少しギャンブルじみた仕事。そんな漁師が、イエスの宣教を手伝うのにおふさわしい人たちだったということなのだろうか? ▼しかし選抜されたのは漁師だけではない。徴税人も、大工も、熱心党という革命グループに属する人もいた。そして後イエスを裏切るユダも...。その後の弟子たちの姿を見ると、とてもおふさわしいとは言えない、むしろイエスのことをほとんど理解していない「烏合の衆」のような人々である。▼イエスの担った宣教の働き、それは全ての人を導かれる「神の国」を築くことだった。そんな大切な働きを担うのに、まったくおふさわしくない人々が選抜されていた...このことは私たちに何か大切なことを示しているように思う。それは、イエスの担った働きは大切なものではあるけれども、イエス独りで担うものではなく、弟子たちと共なる共同作業であったことだ。▼手が足りなかったということもあるだろう。しかしそれだけでない。その大切な働きは、イエスと同じ力を持った「立派な人」だけが担うのではなく、弟子たちのような無理難題な者も選抜した...いやむしろそんなおふさわしくない者こそが選抜された、ということなのではないだろうか。▼力ある者だけで進めた方が効率的だったろう。しかし一部の人で理想的な世界を築いても、それではみんなの喜びにはならない。強い者も弱い者も力を合わせる時、達成度は低くてもそこにはみんなの喜びがある。イエスが目指した神の国とは、そういうものなのだ。